



つばめ通信

第21号

令和5年5月1日

特定非営利活動法人

NPO 成年後見湘南

平塚市代官町16-37

平塚チェリーマンション102号

発行責任者：成瀬富子

設立20周年を迎えました

NPO 成年後見湘南は「知的障がい者が親亡き後も安心して暮らしていけるように」と知的障がい者の親・兄弟姉妹たちによって平成15年5月に設立されました。

素人の親たちが立ちあげたNPO 法人でしたが、たくさんの方々を支えられてここまでやってこられました。また会員になり NPO 法人 を応援してくださっている親御さんや一般の方々のお力添えで20周年を迎えることができました。皆さまのご支援に深く感謝申し上げます。

総会と記念講演会

令和5年5月22日(月) NPO 成年後見湘南の第20回総会を開催いたします。コロナ禍でもあり今年も一般会員の方の参加はなしとし、定例会メンバーで行います。会員の皆様へは総会資料をお送りいたしますので委任状の返送をよろしくお願い致します。

今年は20周年記念行事とし10月10日(火) 平塚プレジールにて記念講演会を実施致します

1. 成年後見の講談(講談師、神田織音)
2. 又村氏による成年後見の講演

詳細は後日連絡いたしますが、皆様の多くの参加をお願いしたいと思います。

令和4年度の活動報告

令和4年度もコロナ禍のため法人の活動に大きな制約を受けました。特にご本人さんとの面会には難しい面がありました。法人内の定例会議、業務検討会議や事務局会議は原則リモートで実施いたしました。また新規に1名の方の後見人に選任されました。1名の方はお亡くなりになり後見が終了しています。法人設立以来の受任累計は39件(終了10辞任1件を含む)となり、会員数は131名になりました。当初は全員が知的障がい者施設に入所されている方でしたが、現在はグループホームで生活し一般就労をされている方、特養に入所されている方、長期入院をされている方など様々な方の支援をしております。

成年後見制度の動向

現在は第二期成年後見制度利用促進基本計画(令和4年~令和8年までの5カ年計画)で、サブタイトルは「尊厳のある本人らしい生活の継続と地域社会への参加を図る権利擁護支援の推進」です。これは権利擁護支援の一環として成年後見制度の利用促進を推進するという、

第二期計画全体に通じる最も重要な考え方です。第二期計画には、これまで必ずしも明確に定義していなかった権利擁護支援の定義を盛り込み、また、成年後見制度の利用促進は、単に利用者の増加を目的とするものではなく、全国どの地域においても、制度の利用を必要とする人が、尊厳のある本人らしい生活を継続することができる体制の整備を目指すものでなければならないとしています。

今後の活動

NPOの基本理念とキャッチフレーズに基づき初心を忘れず、これからもご本人に寄り添い、ご本人の意思を汲み取りより良い後見活動に努めていきたいと思えます。

基本理念 *知的しょうがいがある本人が安心して幸せな人生を送れるよう

*また家族が安心して将来を託せるよう

キャッチフレーズ

*引き継ぎます、家族の心で、見守ります、本人の未来を

本年度もよろしくお願い申し上げます。

菊地 洋一(副代表理事)

コロナ禍と巣ごもり生活

コロナが流行し始めてから約3年になります。その間外出と集合の自粛が求められ巣ごもり生活を余儀なくされています。施設での生活をしている入所者にとっては窮屈でつまらない毎日になっていると想像します。施設内で新しい生きがいを見つけて、毎日の生活を充実させることが不得手な入所者がほとんどだと想像します。支援員(職員)の方も同様でないかと想像します。

コロナ禍は第7波まで進み、もう少しで収束すると希望的観測を述べる専門家もいますが、感染者の多さは収束する方に向かっていように見えません。世界ではお隣中国のように手を緩めると急拡大する事例も見受けられます。

入所者と職員は毎日巣ごもり生活を余儀なくされて同情いたします。3年も巣ごもり生活が続くと精神のバランスが崩れて、生活が荒れてくる入居者が出る事も考えられますが、私の承知している施設(4ヶ所)の入所者からはそのような悪い話は聞こえてきません。担当職員の懇切な対応によるものだと感謝しています。

時間を持て余すのはもったいないと思いますが、新しく何かをやるということは入所者に負担になると思われれます。支援計画書作成で話しあっても良い案は浮かば

なくて残念です。

以前の生活に戻ることが遅れば遅れるほど大きな努力が必要になり、余計なことが必要になると思います。元の生活に戻ることを期待しています。

小倉 淳一(後見担当者)

後見活動(保佐人)の報告

前号、前々号に引き続きAさんについて。今回は、電気製品の購入についてお話しします。団地で自立した生活を送り、とても健康で平日は自宅から小高い山の上の施設まで徒歩で通所しているAさん。

夏の面会時に「電子レンジと扇風機が壊れて、困ってる」とAさんに言われました。担当の生活支援員さんも予定があり買い物に同行はできないので、暑さの中扇風機がないと熱中症の危険もあり困るので、一緒に買いに行くことにしました。

どこで買えばいいのか。私は平塚には土地勘がないので、NPOの事務局のメンバーに尋ねたりして探し、B電器店が最適とわかりました。では、運搬はどうする。これも事務局のCさんが当日車で送迎してくれることになり、法人後見の良さを感じ、本当に助かりました。

次に、どこの製品を買えばいいのか。Aさんが使い慣れたものが一番いいわけですが、同じものがあるのか。現在使用している電子レンジと扇風機をスマホで撮影して、電器店で照合することにしました。

休日に自宅の団地で待ち合わせ。Aさんもうれしそうな感じです。さすがにB電器店、たくさんの製品が陳列されています。撮影画像を参考に同じような製品を探し、見つけることができました。

自宅に運び、壊れた電子レンジと扇風機を持ち出し、買って来た製品の梱包をときセッティングの作業にとりかかりました。ここで粗大ゴミとなった電子レンジと扇風機、どう処分すればいいのか。収集日が決められているので困りましたが、Cさんが収集日に搬出してくれることになりました。

電子レンジのセッティングは簡単にできましたが、扇風機は細かいトリセツを見ながらセッティングしました。悪戦苦闘、結構時間がかかってしまったので、Aさんから「まだ」と声がかかってしまいました。

これからも、本人の困りごとに寄り添い、快適な生活ができるように後見活動をしていきたいと思ひます。

清宮 勝男(事務局・保佐担当者)

つばめ通信はHPでもご覧いただけます。

<https://www.koken-shonan.com>

見送りを経験して

昨夏、後見担当をしていたAさんが亡くなりました。長く入院生活をされていてコロナ禍での制約もあり、面会できたのは数回でしたが、優しく穏やかな笑顔が素敵な方でした。コロナ第7波のクラスターによる感染後、完治はしたものの徐々に内臓の衰弱が進んだことが原因でした。この紙面では葬儀、納骨から財産引継等事務手続き終了まで、初めての経験を振り返りたいと思ひます。

○連絡 病院から緊急電話連絡があったのはちょうど夕食時、取り急ぎ成瀬さん、菅野さんに連絡して病院に駆けつけました。そして死亡確認など行った後に葬儀場に連絡し葬儀、納骨の日程までお二人に助けていただいたおかげで迅速に事が進みました。

○葬儀

問題は葬儀にあたり「喪主」になれる親族がいないため、私(後見人)が喪主を務めるのですが、それには後見人の最新の登記事項証明書が必須。そこで成瀬さんに法務局横浜支局まで書類を取りに行ってもらっていただくことになってしまいました。

そして斎場の予約、葬儀日時と僧侶への連絡、そしてその日のうちにAさんの父親が永代供養されている寺院に移動して納骨まで行うというスケジュールを進めることになりました。

葬儀では長くお世話になった施設、グループホームの関係者の皆さんにAさんを偲ぶコーナーを設置していただきました。そこにはAさんのアルバムからたくさんの写真を掲示していただき、私も知らなかったAさんの青年時代の雄姿や笑顔を見ることができました。

○納骨

葬儀を無事に終えて小田原の寺院での納骨まで、故人を見送ることができた感慨と感謝、安堵感に満たされた晩夏の日でした。

○財産引継ぎ

さて、次は財産引継の大仕事です。連絡を取れるAさんの親族(きょうだいの方)はただ一人、しかもその方には後見人(司法書士)がついているため、財産引継書、財産目録を作成して後見人と連絡を取り合い、引継書類に捺印していただき、終了報告書とともに家裁に送付してすべて「終了」となりました。こちらはいろいろと気苦労が多く、葬儀の段取りよりも大変でした。

高齢の方が多くなり「見送り」をしなければならない機会も多くなります。今回は「先達はあらまほしきことなり」という古典の一説の通り、初めての事態に直面してうろたえる私を助けていただいた法人のみなさんには感謝の一言です。そして、事務手続き終了をもってすべて終わりではなく、命日には故人を偲ぶことも忘れずに行いたいと思ひます。

前橋 克次(事務局・後見担当者)

◆編集後記 この3年のコロナ禍の中、施設職員さん・被後見人さん・後見担当者等それぞれの場面で創意・工夫、努力をして乗り越えてきました。今回は「見送り」という厳しい現実の課題に向けての内容が参考になったのではないのでしょうか。設立20周年を迎え行事等も控えています。今後ともご支援よろしくお願ひいたします。秋には、「つばめ通信特別号」を発行します。(K.K)